



■いつもお祈り感謝いたします。

■活動報告

*福島HOPEプロジェクト

昨年11月と12月に福島HOPEキャンプが行われました。11月には生亀俊輔さん、12月には梅田信さんがスタッフとして参加しました。

◆証:梅田信さん

私が福島HOPEプロジェクトキャンプに参加するきっかけになったのはすでに参加していた友人の誘いでした。私自身は震災後3年間、何もボランティアもせず、福島も何かのついでに通りにかかる程度の人間でした。しかし何かしらの形でボランティアなどでできたらいいかと常に思っていました。そして震災から4年経って初めて福島HOPEプロジェクトを通して震災に関わることができました。キャンプ自体は2回参加し、2回とも子供達と一緒に遊び、楽しそうに遊んでいる子供達を見て私が元気をもらい逆に励まされました。震災から今年で5年目になり福島HOPEは当初予定していたプロジェクトの期間を満了します。しかしまだ放射線の被害が続いている中で今後も何かしらの形で活動をしようとする動きがあります。私がこの時期に福島HOPEに参加できたことは何か深い意味があるように感じています。今後も私は福島HOPEが続くのであれば参加していきたいと思ひますし、もし活動が終わってしまっても何かしらの形で関わられたらと思っています。

*福島ボランティア

昨年、11月26～28日に被災地の視察を目的としエペソ5:2をテーマ聖句に勿来キリスト福音教会を訪問し、仮設住宅訪問や東北ワークショップなどが行われました。TCU生7名が現地へ行き、1名が祈りのメンバーとして参加しました。

◆証:岡本みちるさん

今回、「何の為にボランティアを企画するのか」を深く探られました。エペソ3:13-19、5:12が特に心に響き、いわきへ行くのは神様の御業をみせて頂く為と示されました。

短期間でも学ぶ事の多い充実した日々でした。被災地の視察では、衝撃的な現実を目の当たりにし、言葉にならない思いでした。ガイガーカウンターのアラームが鳴り響く中で、国道6号線を海岸線にいわきから富岡町まで北上した際に見た光景は、「これが現実の日本なのか」と思わせるものばかりでした。津波被害、行き場のない汚染土、荒れ果てた小学校、2度と戻れない家と田畑、、、想像以上に手の付けられない状況でした。私の力ではどうにもならない、人の「むさぼりの罪」の結果。しかも、私を含む首都圏の人々の便利な生活の為に。

そのような中で住吉先生ご夫妻が、「キリストがそうされるから、そうするのだ」と、明るくユーモアをもって支援活動を続けておられることに希望と励ましを与えられました。「イエス様がなされること」を見せて頂きました。今この時に与えられた全

ての経験を感じています。

*東仙台ボランティアキャンプ

1月に東仙台で冬のキャンプが行われました。このキャンプには毎回多くの子ども達が参加しています。この日、TCUは授業日でしたが、2名がスタッフとして参加しました。

◆証:吉橋雄介さん

私は1月4日(月)～1月6日(水)まで、宮城県東仙台教会の主催する子どもキャンプにスタッフとして参加してきました。このキャンプは被災地の子どもたちを対象とするキャンプで、私自身は今回で5回目の参加でした。今回のキャンプは、冬ならではの雪遊びやカレー作り、スポーツ大会などのプログラムを通して子どもたちと一緒に遊び、関わりました。笑顔で、心から楽しんでいる子どもたちの様子を見ると、私たち奉仕者の方が元気をもらいます。また、同じ部屋の子どもたちとお話をする中で、ある男の子が津波の被害を受けた家族の話に悲しそうに話してくれました。震災当初小学1年生であった彼の心にも、今でも消えないほどの大きな傷が残っていることに大変ショックを受けました。震災から5年が経とうとする今、物質的なニーズよりも、心のケアが何よりも必要であると思われされる被災地の現状。ボランティア活動も求められるものが変化してきている。そんな中で、私に何ができるのかと悩む時があるけれど、まずはこれからもこのキャンプを通して知り合った子どもたちと関わり続け、傍に寄り添える存在でありたいと思ひます。

■ボランティアセンターリーダーズについて

今年度、豊島集司さん(院2年)、西岡牧葉さん(4年)が卒業し、4月から新しいメンバーでの活動となります。

新リーダーズ

吉橋雄介(2年・新リーダー)	上門豊明(院1年)
鈴木美律子(院1年)	嶋田健治(3年)
赤羽根美希(3年)	

これからの活動を覚えて引き続きお祈りしてくださいと感謝です。

■ボランティア報告会

2月18日にボランティア報告会を行いました。参加したキャンプの活動報告をしていただき、それぞれの働きを覚えて共に祈る時を持ちました。とても良い時となりました。

